丸山湿原群保全の会会報

（第 148 号）

発行日：2019 年（R1）11 月 19 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061（今住）

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

一気に秋になりました。気温も０℃を下回り（１５日）霜も本格的になってきました。山は３日程で色づきました。驚くスピードです。１０月の高温でサルスベリに花がつき、モチツツジやイシモチソウまで咲いたりと奇妙な陽気でした。が、着実に冬には近づいているようです。ただ、「狂い咲き」で片付けられないことが頻繁に起き始めているような気がします。

今年は暖冬といわれていますが、暖冬中に大寒波が来るのではと考えてしまいます。数十年に一度が数年に一度の時代。用心だけはしておきましょう！どうすればいいのか分かりませんが…覚悟は常に持っておかなければいけないような。

今日は「春一番」の様な風が吹いています。気持ち悪い暖かさです。

（今住　11 月 18 日作成）

訂正とお詫び★申し訳ありません。今回はアリマコスズの漢字表記の訂正！

前回「ササの話」の**アリマコスズの漢字表記を「有馬小蔫」**と紹介しました。**しかも「「蔫」の意味は面白い！」**とも。この**「蔫」が間違っていました。正しくは「有馬小篇」**です。

蔫 エン

読みは「エン」**意味は植物などが「しおれた」**などを表すようです。アリマコスズに当てはめると**「有馬の小さなしおれた植物？」で面白いな～と考えました。**せっかく**望月さんに教えていただいたのに間違えていました。**なんと JIS 第４水準の文字。なんで間違えたんでしょうね。ついでと言っては何ですが、間違えたから見つけた大槻玄沢（江戸時代後期）の「蔫録（えんろく）」という本がありました。これは「たばこ」について書かれた本でした。

篇 エン

こちらも、**読みは同じく「エン」。意味は「細い竹＝ササ」。古語に「すず」という読みがあったようです。「すず」自体「スズダケ」の意味も持つらしい。だからこの字がアリマコスズの「すず」。「有馬の小さなササ」**！この字は JIS 第２水準の漢字。ここまでが一般的に使われる漢字の限界です。万葉集にも「御篇刈る（みすずかる）」という「信濃」にかかる枕詞として登場するようです。「万葉仮名？」ですが…。信濃がササの多いところというのが垣間見えるようなのは私だけ？篠山の「篠」もササ（同じスズダケ）。全国どこでもササだらけか？**「ありま山 猪名の笹原 風吹けば…」もササ。ただ、地方によってササの種類が違うようです。「猪名の笹原」はネザサ（根笹）。土地に一番多くあったからか？**また間違ってるかも！

アリマコスズ

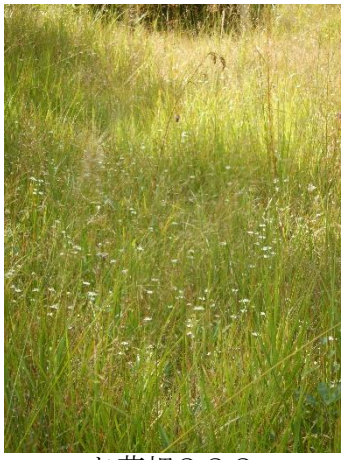
ひょっとして誰も気にしていなかった？とも思われますが、書いている本人はなんか違和感が残り、気になって気になって夜も眠れませんでした。申し訳ありません。**種名の漢字表記はその種の形や性質、産地などがよく分かりとても面白いと思います。**時々とんでもない名前もありますが。**ただし、よいこの皆さん。理科での和名表記はカタカナと決まっていますので、テストの時は必ずカタカナでお書きください。**なんの会報かわからなくなってきました。お詫びはこのへんで。

定期活動★10 月 27 日（日）歩道ササ刈り作業　湿原観察　６名で活動

久しぶりの作業です。丸山はワイルドが売り？ではありますが、歩道にあまりにもササ（ネザサ）が覆いかぶさってきましたので少々刈り取りをしました。話題的に一番ホット（うちらだけの…）なササ。ちょっと見分け方も分かってきたような…。とりあえず**歩道に大きく被さってきているのはネザサ（根笹）で間違いないので、基本的なスタンス、最重要刈り取り植物**として作業しました。（実はコンゴウザサ【金剛笹】も交じっています。）季節は急に秋。小春日和（この時点でまだ寒い日はあまりありませんが）というにピッタリの日でした。その割にハイカーは少なく、作業のエンジン音が響いていました。**風雨で倒れた枯れ木の処理や、久しぶりに「刈り払い機」を使う方は「研修」を受けながら黙々と作業。**疲れるほどはしませんが…少しすっきりしました。道下の平場整理はなかなか進みません。こちらは来年に入ってから。いつも鬼が笑っています。いつか笑われないようになってやる！鬼に怒られても困るけど。

作業前の歩道

作業後


お花畑？？？

その後湿原へ。そろそろウメバチソウが最盛期のはず。気持ちがはやります。歩道を抜けて**第３湿原へ。ウメバチソウ（梅鉢草）がいっぱいです。「お花畑」。この言葉、丸山には似合わない。驚くほどの数は咲いているのですがなぜでしょうか？色？カラフルではないからか？そこがいいのですが…。何か物悲しいものがあります。「侘び寂び」としておきましょう。**ワイルドと矛盾するような気もしますが。**野草は「投げ入れ」が一番美しいですからね。**

よく観察するとウメバチソウは本当に美しい花です。**飾り雄しべ、純白の花びら、雄しべの成熟方法、雌しべの色変化などなど。また、花の終わった姿が美しい。まさしく自然が作った芸術作品です。「雄しべ」についてはバックナンバー111 号で詳しく書いています。HP からも確認できますので是非ご覧ください。**

ウメバチソウ

センブリ

花の終わった様子は紙面後半で。

同じく第３湿原上手木道の近くにはセンブリ（千振）・ホソバリンドウ（細葉竜胆）が増えてきました。数年前まではネザサが占有し、植生の貧相なところでした。毎年のササ刈りとイノシシの攪乱のおかげか。はたまた、ただ気候のきまぐれかは不明。**センブリは湿地とは言えない場所に生える植物。湿原の拡大になっているのかは？？？。しかし、多様性の拡大には違いないと喜んでいます。**その後、冬季のヌマガヤ刈りに気を巡らしつつ解散となりました。

背面模様の曖昧なマムシ

そうそう、**また今回も蛇の話題がありました。ま・む・し。**２匹も出会いました。少し気温が低くなり動きが鈍

ホソバリンドウ

10 月に観察したマムシ

くなってきているようです。木の株付近で日向ぼっこ？思わず捕獲。**模様がはっきりしない個体でした。無毒の蛇と間違える人もあるかも？気を付けてください。**さすがに霜が降りたので冬眠したと思いますが…。

このマムシ（蝮）も観察すると面白い。瞳孔の形は縦。他の蛇は丸。ピット機関という熱（赤外線）センサーで生き物を見る（感知する）。どちらも西谷で見られる蛇ではマムシだけだと思います。目玉見て見分けるのも怖いですね。見ようとするとピット機関で襲われる。くわばら、くわばら…。触らぬ神に祟りなしです。が、この言葉やっぱり好きではありません。触ってるし。よく相手を知ってから触るべし！（基本あかんで。リスクは自分で背負ってください。）

定期活動　11 月９日（土）定期活動　基礎調査　観察　ごみ回収　６名で活動

この日も小春日和。気温は 18℃近くまで上がりました。先月とほぼ同じくらいの気温です。秋らしい秋にはなかなかなりません。しかし不思議なもので、紅葉は進んでいます。昼夜の寒暖差はかなり出てきているようです。

目的	市内	市外
丸山	15	12
ハイキング	11	19
その他	19	15

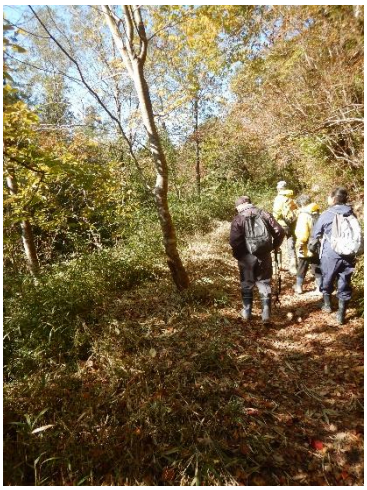
来場者数　計 91 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：10	17.8℃		
第３湿原	10：36	【12.0℃】	35.4μS/cm	6.7
視点場	10：50	17.1℃	28.3μS/cm	6.3
第１湿原	11：01	【10.1℃】	32.1μS/cm	6.8
第２湿原	11：46	【10.2℃】	36.3μS/cm	6.6

湿原の様子

向かう道は前回少し整理したので明るい。秋の日差しが物悲しげに照らします。竹筒カウンターも認知度は上がっているようですが減少傾向。しかし、**出会う人たちから「ブログ（HP？）見てますよ」と言っていただけることも。力が湧いてきます。**ただ「その他」の数が増えています。項目は作っていますが、「その他」って何？キノコ狩り？柴刈り？猟師？猟期は 11 月 15 日からです。デートかもしれませんね。「映え」するスポットもあるし…どこか知らんけど。まさか盗掘者（どろぼー）は入れんでしょ。

小春日和の竹筒ポストカウント


少し開けた歩道

真っ赤に染まった歩道

タカノツメ（鷹の爪）・カキノキ（柿の木）の葉が緋の絨毯のように敷き詰められています。ほのかに甘く匂う発酵臭。この匂いで晩秋を感じます。秋がいつかわからなくなっているのが現状ですが。

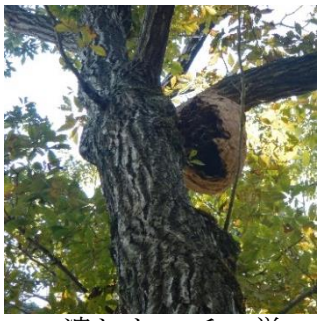
湿原ではウメバチソウがそろそろ終盤を迎えていました。しかし比較的花期の長い花。11 月末ぐらいまでは見られるかもしれません。終わった花もまた可愛い。残った飾り雄しべと膨らんだ子房。色づいた雌しべ。近くで観察できれば感動すること間違いなし！よく見てください。まもなくとても細かい種ができます。

花の終わったウメバチソウと花

センブリも終わりが近い感じに。これもまもなく細かい種を振り撒きます。撒くのは風？猪？鹿？獣道に点々と見られるのも事実。

最後に例の木にぶら下がった**キイロスズメバチ（黄色雀蜂）の巣。なんと一部つぶれていました。**ハチクマ（蜂熊）か？と夢が膨らみますが、木の幹の方だけが破損。風で揺れたのか。まだ働きバチはチョロチョロしていますが、女王バチは旅立った後でしょうか？下を覗くと蜂の巣盤（すばん）が落ちていました。新鮮な幼虫も。思わずパクリ。お味は「うまくも不味くもない」。炒めたり味付けが必要か？「虫食」が少し話題になっています。また機会があれば挑戦しましょう。

蜂の巣盤　この後パクリ


潰れたハチの巣

シダ（羊歯）の話

今回はシダ（羊歯）です。**情報は前回と同じ神戸の望月さん。**最近西谷のササ類の調査に、あちこち訪問されているようです。**丸山近くでササを観察中に思わぬものを発見したと連絡をいただきました。**

アカハナワラビ

なんと**兵庫県 RDB A ランク**の**アカハナワラビ（赤花蕨）**。シダのセミナーを９月にしたばかり。何かご縁を感じます。既に同定はされていますが、セミナーでお世話になった講師の山住さん、ぜひ見に来てください。しかるべき者がご案内いたします。場所はひ・み・つ！しかるべき者って誰や？望月さんか？望月さんシダにも詳しいようで…。しかし未だシダガールは見当たらない。これは残念！

初めて聞いたアカハナワラビ。「ハナヤスリ科ハナワラビ属。担葉体（共通の柄？地中？）の上に栄養葉と胞子葉を持つハナワラビ属に典型的な形のシダ」とネットに。？？どうやらワラビとは名前がついているが、普通のシダとは違うもののようです。今度は普通ってなんや？になりますが…**ちょうど胞子葉？を上げていました。見るとなるほど「花ワラビ」。花を咲かせているようではありませんか！セミナーで学習したシダはこんな形ではなかった。葉の裏に胞子嚢を作り生殖。前葉体…山住さんの熱のこもったお話が頭をよぎります。**

アカハナワラビ（別株）

めったにお目にかかれないシダ。**「アカハナ」の由来は寒くなると葉（栄養葉？）が赤く色づく**からだそうで、赤鼻のトナカイさんが来る頃にはアカハナ（赤葉ですが…）になるようです。経過観察を続けます。まさしくクリスマスプレゼントです。ただ、環境的に不安定？な場所なので保護を考えなくてはいけないかもしれません。丸山（天然記念物ゾーン）ではありませんので注意深く行動したいと思います。教えてくださった望月さんありがとうございました。ササの新たなネタもありますが、これは次回あたりか。お正月も近くなりササの出番もあると思いますので。乞うご期待！誰も期待してないよな･･･。ササガールもおらんし。マニアック？

※「たからづか市民環境フォーラム２０１９パネル展」に出展します。　場所　市立東公民館
期間　11 月 29 日（金）～12 月７日（土）　最終日にフォーラムがあります。講演は「ざんねんないきもの事典」の著者、丸山貴史さん。すでに満席締め切り。ですが参加は可！席なしかも？

次回活動日　11 月 24 日（日）　12 月 14 日（土）　22 日（日）納会？　年の瀬です。